
カラヌとの旅

かずてる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カラヌとの旅

【Nコード】

N1424M

【作者名】

かずてる

【あらすじ】

眺めていると吸い込まれていく。

飛行機雲、ふた筋。

生きにくい世界をしばし離れて、わたしはカラヌと旅する。

きみへのあいさつ

上へ、上へと。

見上げた空はクリアで。

地上がひっくりかえって宇宙に向かって落ちていくようだね。

眺めていると吸い込まれていく。

飛行機雲、ふた筋。

いろんな足かせがあるだろ。地上には。

生きて、死ぬ。

たったそれだけの区切りの間に僕らはどれだけのきまりや、限界にはばまれるんだろう。

そんな風に思ったんだと思う。小さい頃。それから、僕は人とは異なる世界の切り取り方をするようになった。

文学だから、文学みたいな表現になっちゃってもうしわけない。

僕は生きることに、少し息苦しさ、悲しさと、寂しさをずっと感じている。

そんな僕の物語を、はじめます。

まずは、説明からだ。いろいろと説明しなきゃいけない。名前とか、どんな見た目の男なのか、とか。僕はいま、にが笑った。だって、ほんとうに苦手だし、僕の頭のなかにはありありと拡がってる光景を言葉に置き換えるなんて作業がすこし「もったいない」と思ったりするんだ。

綺麗な宝石があるとする。僕はその美しさをきつとパーフェクトには言葉に置き換えられないと思う。

「もつたいない」よね。

僕というカメラを通してきみのなかに広がるイメージが、ノイズやピンぼけ混じりだったら、それは僕のせいだから。ごめんなさい。

僕はカラヌといいます。日本人じゃないし、ほかのどこの国の人でもない。

見た目は……わらっちゃうよ。僕は、僕の見た目を説明しなきゃいけないんだ。そうだな、半透明な目を持っていて、すごく軽くて長いマントをはおってる。

最初に伝えておこうと思うんだけど、この物語には起承転結がない。期待しちゃうでしょ。でも、期待には沿えないんだから。何も起こらない。連続するイメージの素描だと考えていておいてほしい。

あらためて、こんにちは。

ここは丘のてっぺんです。

ここは、僕にとってなじみ深い、僕が一番僕らしくいられる場所。きみを連れてくることができて幸せです。

あしもとを見て。

緑の草がくるぶしの高さまで生えているでしょう。

そしてこの丘の全体を、そのふもとに広がる平野を、いくつかの別の丘を、きみが見るすべての地上は緑一色なんだ。

傾いた太陽の光。濡れた草の表面が金色に光るね。

波の模様みたいに、風がざあっと緑の海を揺らすんだ。

なるべく沈黙しているよ。

きみと僕で、しばらくここに立っていよう。

ね、聞いてもいいかな。

あ、沈黙してられないのは、ほんとにきみにたくさん話したいことがあるからかもしれない。

きみは生きてて楽しい？

僕は、正直あんまりうまくいっていないよ。

こうやって空想の翼をひろげていないと、きっと、すかすかにひからびて死んじゃうんじゃないかと思う。

空想の翼に身を任せて世界を飛びまわる。その間だけ、自由に、
楽なんだ。

ごめん、ぼくは君の案内役だった。ぼくの愚痴を聞かせるのが、
ぼくの役目じゃない。

でも、ひとつだけこのあいさつの最後に告白してもいいかな。

ぼくはうれしい。きみがここにいてくれて。ぼくは君といるとさ
びしくない。ありがとう。

さあ、いろんな場所に行こう。

きみを楽しませたいんだ。この世界のバリエーション、それをき
みに伝えたいんだ。

さあ、行こう。

言葉の滝

カラ又はわたしの手を握って、目を閉じた。
私も目を閉じた。

さあ、着いたよ。でも、そのまま目を閉じていて。ほら聞こえるでしょ。

ああ、聞こえる。すごい音だな。

滝の音。ごうごうと響きながら、空気は圧力を帯びて、頬や指先に振動が伝わってくる。絶え間ない風が吹いている。

目を開けてみて。すごいよ。

ああ、何万本もの滝が空中に浮かび、轟音を立てながら底なしの彼方に流れ落ちている。吹き付ける風は、滝が巻き上げた空気の渦だった。

わたしたちは何もない場所に手をつないで立っている。

【執筆中】

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1424m/>

カラヌとの旅

2011年1月16日09時31分発行